巻頭言

コロナ禍の国際交流
GLASS MEETING 2020開催

Consideration on International exchange under Pandemic of CORONA Virus Organization of GLASS MEETING 2020

東京工業大学　物質理工学院　教授
矢野　哲司
Professor of School of Materials and Chemical Technology, Tokyo Institute of Technology
Tetsuji YANO

1年前の今頃には世界中で誰も予期していなかったCOVID-19の蔓延は，2020年の1年間のあらゆる活動に影響をもたらしました。日本では，東京でオリンピックが開催され，海外から多くの人々を受け入れて，街中はもちろん，日本中のあらゆるところで，観光や訪問を受け，活況を呈し，経済活動も順調に上向きに成長するだろう，とだれもが期待をし，疑いを持っていなかったのではないかと思います。

コロナウィルスとは何ものか，未知のウィルスに対して人はさまざまな反応を示し，意見が分かれます。リーダーシップの中身が大きく表面化し，蛇行を繰り返しながら，原稿を書いているいまも何がどう優先されるべきなのか，議論百出，批判の声も大きく取り上げられたりしています。科学はどこまで成長し，対応を加速化できるようになったのか。社会と人の期待が複雑に絡み，Win-Winの関係をとれるほど甘くない，というのもひとびとの身近なところに露見してきました。正確に冷静に判断する見識が皆に問われていると考えてよいのでしょう。

GLASS MEETING2020は，米国，ドイツを幹事国として数年間隔で継続して開催されてきた国際会議AFPG（Advances in Fusion and Processing of Glass）に日本も幹事国として参加してほしい，という要望を端に開催することとなりました。日本セラミックス協会，米国セラミック協会，ドイツガラス協会の3者でMOUを締結し，第12回目となるAFPGを，第61回ガラスおよびフォトニクス材料討論会，第16回GICシンポジウム，第

２回放射性廃棄物討論会とジョイントさせた国際会議『GLASS MEETING 2020』として東京工業大学大岡山キャンパスで開催する予定となっておりました。3月下旬ころ，主催者としてどのような開催方法をとるべきか，大きな判断を求められたのと同時に，日本，米国，ドイツが等しく参加できる形態とはどのようなものかなど考慮を重ねた結果，日本時間，ヨーロッパ中央時間，米国東海岸時間，同西海岸時間の４つの時間帯を使い，どこに居住していても会議に参加できるストリーミング形式で行うこととしました。また加えて，時差を超えて開催する国際会議としての要素を取り入れる方法として，日本時間の朝に米国と，夕刻にヨーロッパとライブ接続し，キーノート講演を行ってライブで質疑応答する形式を要素として取り入れる形にたどり着きました。これにより，通常，開催国の時間帯に合わせて行う On-line 会議とは違い，夜中に起きて会議に参加する必要がなくなりました。12月７－９日までの３日間，投稿されたアブストラクト，発表動画を視聴してもらい，質疑を Web を通して受け取ったあと，16 － 18日の第２期までに講演者から応答を受け付けて，再び講演ビデオとともに視聴できる形式としました。

この会議を通じて，ネット環境の威力と可能性を強く認識できました。と同時に，普段，開催国に赴き，face-to-face で話や議論を行うことに慣れていた通常の感覚とのずれについても，強く感じられました。参加された方々の中には同様の感覚を覚えた方も多いのではないでしょうか。会議には，普段あまり参加できない国々からの参加もありました。それらの国からは，とても大きく感じる参加費や渡航滞在費を心配しないで参加できるという声も聞くことができました。主催者として，メールのやり取りを通してそのような感覚を実感できたのも大きな収穫です。

学術の世界での国際交流は視野を広げるうえでとても大きな教育的要素が多く詰まっています。いま，大学でも，もちろん企業の中でも渡航は大きく制限されています。ワクチンなどのメディカルな治療方法，予防方法が確立すれば，インフルエンザやあるいは流感のようにコロナウィルスを感じる日が来るのは間違いないでしょう。しかし，一度覚えたこの一種の狭苦しい感覚とネットの環境を通じて得た別の交流感覚は，コロナ禍以降，元の形式に単純に戻る，という道のりをとることにはならないだろうと思います。最初から，ネット講義，ネット会議，ネット国際会議を経験してきた若い世代には，別の感覚が養われているでしょうし，社会を変えていってくれるのでしょう。ガラスを研究している一研究者としては，社会環境の変革・進化だけでなく，進行しつつある地球環境の変化・回復・保護にガラスがどうかかわっていくのか，大きな関心・期待を持ちながら関わっていくのだろうと GLASS MEETING のコンテンツを整理しながら強く感じています。